

活動計算書

特定非営利活動法人 日本医療開発機構
平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

単位(円)

科目	金額	
I 経常収益		
1. 受取会費	2,283,000	
2. 受取寄付金	755,961	
3. その他の収益	27,311	
経常収益計		3,066,272
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給与	0	
人件費計	0	
(2) その他経費		
旅費交通費	547,580	
広告宣伝費	11,584	
医療材料費	29,920	
外注費	1,269,306	
支払手数料	174,829	
減価償却費	154,537	
地代家賃	319,028	
事務用消耗品費	173,050	
通信費	50,670	
水道光熱費	56,528	
接待交際費	15,391	
保険料	16,288	
消耗品費	108,181	
福利厚生費	433,780	
被服費	26,255	
雑給	562,791	
修繕費	3,483	
新聞図書費	19,962	
その他経費計	3,973,163	
事業費計		3,973,163
2. 管理費		
(1) 人件費		
給与	0	
人件費計	0	
(2) その他経費		
旅費交通費	13,108	
配送配達費	13,858	
支払手数料	128,339	
事務用消耗品費	7,092	
通信費	60,783	
租税公課	2,800	
雑損失	13,048	
その他経費計	239,028	
管理費計		239,028
経常費用計		4,212,191
当期正味財産増減額		△ 1,145,919
前期繰越正味財産額		2,180,656
次期繰越正味財産額		1,034,737



貸借対照表

特定非営利活動法人 日本医療開発機構
平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

単位(円)

科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金・預金	854,907		
貯蔵品	1,681		
仮払金	117,373		
流動資産合計		973,961	
2. 固定資産			
有形固定資産			
機械装置	309,075		
無形固定資産			
敷金	82,184		
固定資産合計		391,259	
資産合計			1,365,220
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払費用	101,601		
預り金	10,800		
仮受金	218,082		
流動負債合計		330,483	
負債合計			330,483
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		2,180,656	
当期正味財産増減額		△ 1,145,919	
正味財産合計			1,034,737
負債及び正味財産合計			1,365,220



財産目録

特定非営利活動法人 日本医療開発機構

平成27年3月31日 現在

単位(円)

科目	金額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金・預金		
現金	93,373	
普通預金 三菱東京UFJ銀行八王子支店	348,811	
普通預金 多摩信用金庫高倉支店	412,723	
貯蔵品		
切手	1,681	
仮払金		
JMDO(カンホシア事務所)	117,373	
流動資産合計		973,961
2. 固定資産		
有形固定資産		
機械装置		
ペットサイトモニター	158,307	
シンジホンプ	150,768	
有形固定資産計		
無形固定資産		
敷金	82,184	
固定資産合計		391,259
資産合計		1,365,220
II 負債の部		
1. 流動負債		
未払費用		
カンホシア出張11/18-11/23 岡田医師分	101,601	
ペイデザイン手数料	10,800	
仮受金		
冠婚葬祭助成金	218,082	
流動負債合計		330,483
負債合計		330,483
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		2,180,656
当期正味財産増減額		△ 1,145,919
正味財産合計		1,034,737

監 査 報 告 書

平成27年6月11日

特定非営利活動法日本医療開発機構
理 事 長 北 原 茂 実 殿

監 事 和 田 満



私は、特定非営利活動法人日本医療開発機構の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの事業年度に関して、監査を実施しました。

① 監査手続きについては、預金通帳・現金出納並びに証憑等を閲覧し、その結果収支計算書、貸借対照表、財産目録について、正確かつ適正であることを確認しましたのでここにご報告申し上げます。

② 収支状況については、前年度に比し収入（前年度助成金分を除く）及び支出とも100万円強の減少となっており、財政基盤の確立が求められていると判断します。引き続き広報活動の充実と会員拡大を裾野に広げていくことを期待します。

③国際貢献活動も3年経過し、引き続き「支援」の中身を吟味しながらカンボジアの自立した「くに作り」に貢献できるよう求めます。